



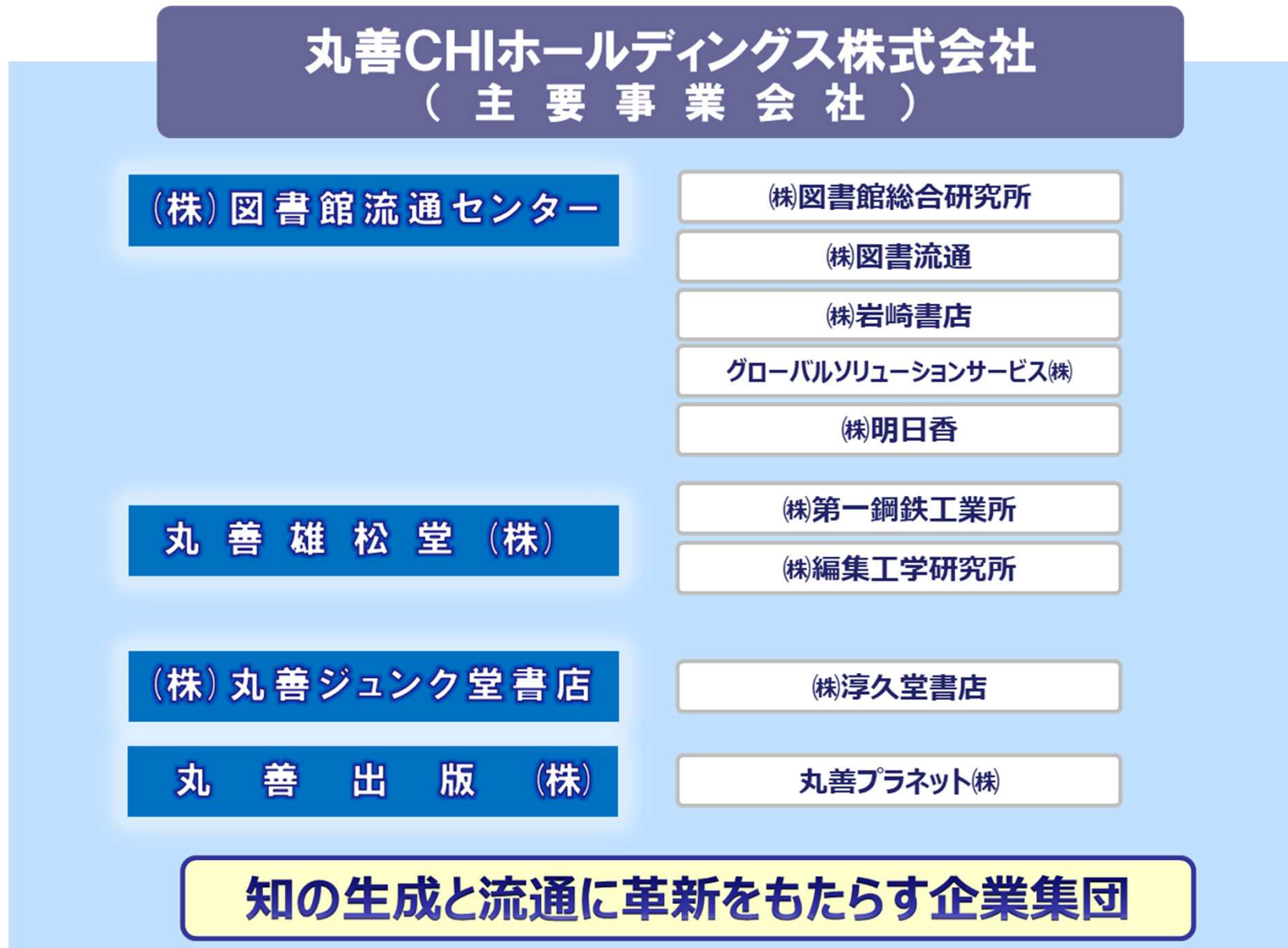
2021年1月期 決算発表ご説明資料

(当社第11期 2020年2月1日～2021年1月31日)

丸善CHIホールディングス株式会社

2021年3月12日

1. 当社の体制図



2. 当期・2021年1月期 業績サマリー・予想比

- 文教市場販売事業では、対面営業機会の減少や、オンライン授業の影響による大学キャンパス内売店の売上減は業績予想に織り込み済みでしたが、電子図書館関連や衛生関連商品に想定を上回る需要がありました。
また、店舗・ネット販売事業においては、大都市中心部の大型店舗を中心に客数が減少しましたが、都市部周辺の沿線駅や地方店舗が想定以上の売上を確保できたため、2020年9月11日時点での業績予想に比べて減収幅を抑えることができました。
これらの結果、売上高は業績予想値から2.2%増の1,716億円となりました。
- 利益面では、比較的粗利率の良い商品が増収となったこと、業務効率化や経費削減に努めたことで、営業利益は49.3%増の約39億円、経常利益は51.4%増の約37億円、親会社株主に帰属する当期純利益は109.1%増の約21億円と、業績予想から大幅な増益となりました。

2020年2月1日～2021年1月31日

(単位：百万円)

【2021年1月期】	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
業績予想値 (2020年9月11日発表)	168,000	2,600	2,450	1,000
実績(本日発表)	171,621	3,882	3,710	2,091
対業績予想 増減	3,621	1,282	1,260	1,091
対業績予想 比率	102.2%	149.3%	151.4%	209.1%

2. 当期・2021年1月期 業績サマリー・前年比

- 売上の前年比較では、文教市場販売事業での、電子書籍・電子図書館の売上伸長、書籍除菌機の需要拡大、図書館サポート事業の新規受託館増などの増収要因もあったが、店舗・ネット販売事業で、緊急事態宣言下における休業や時短営業の影響で、前年から約68億円の減収となったことが大きく、グループ連結売上高は前年比2.6%減、約46億円の減収となった。
- 営業利益は、経費削減に努めたことに加え、臨時休業店舗に係る固定費等約6億円を特別損失に振り替えたことにより販管費計上額が減少し、前期比12.4%増、約4億円の増益、経常利益は前期比12.5%増、約4億円の増益となった。
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、固定資産売却益197百万円、受取補償金365百万円などの特別利益もあったが、上記特別損失への振替計上および税金費用の増により、前期比0.7%増、14百万円の微増益となった。

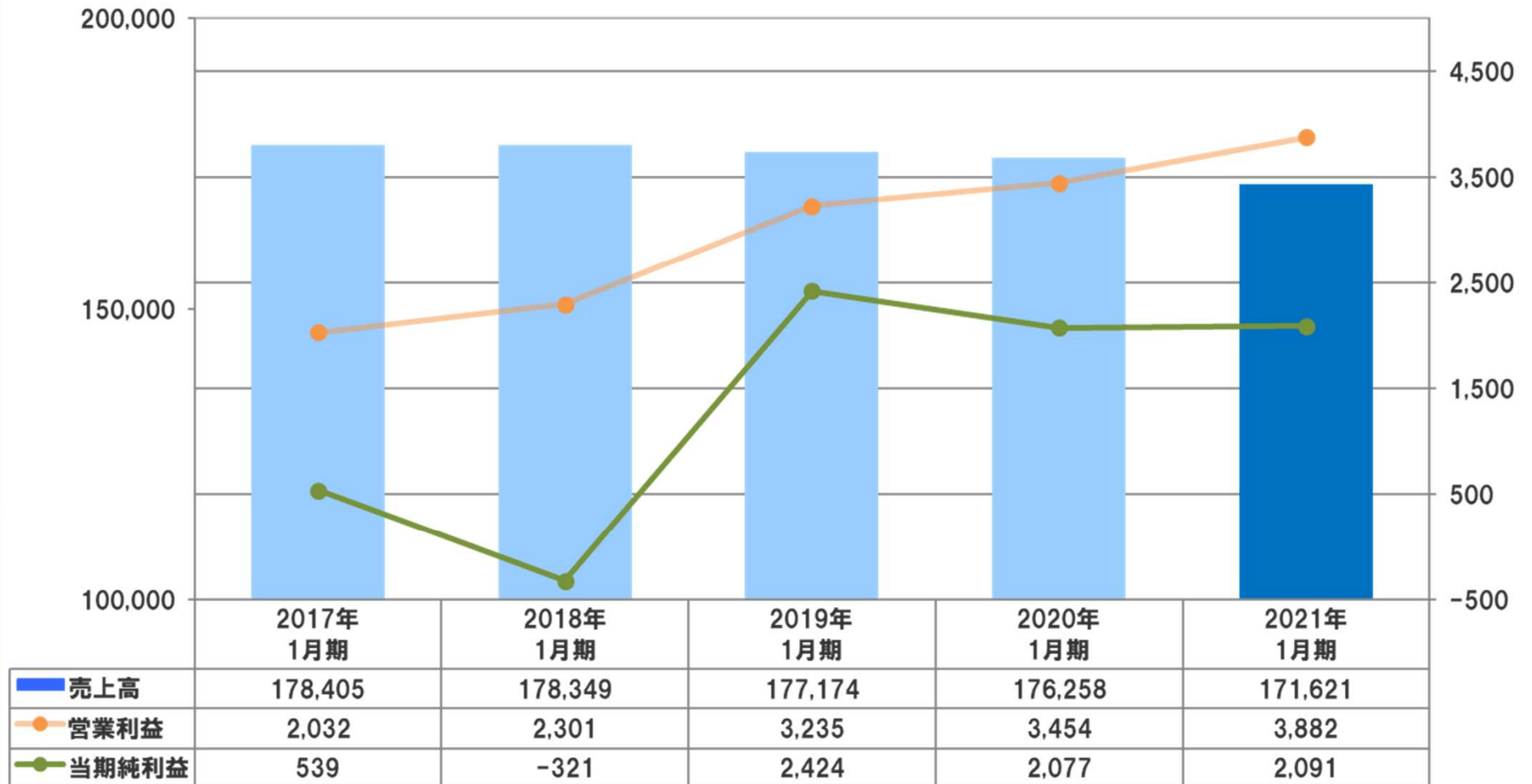
2020年2月1日～2021年1月31日 前年同期比

(単位：百万円)

【2021年1月期】	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
前年同期実績 (2020年1月期)	176,258	3,454	3,299	2,077
当期実績 (2021年1月期)	171,621	3,882	3,710	2,091
対前年同期 増減	-4,637	427	411	14
対前年同期 比率	97.4%	112.4%	112.5%	100.7%

2. 業績サマリー 推移表(連結)

(単位：百万円)



3. 当期・2021年1月期のセグメント損益(連結)

2020年2月1日～2021年1月31日

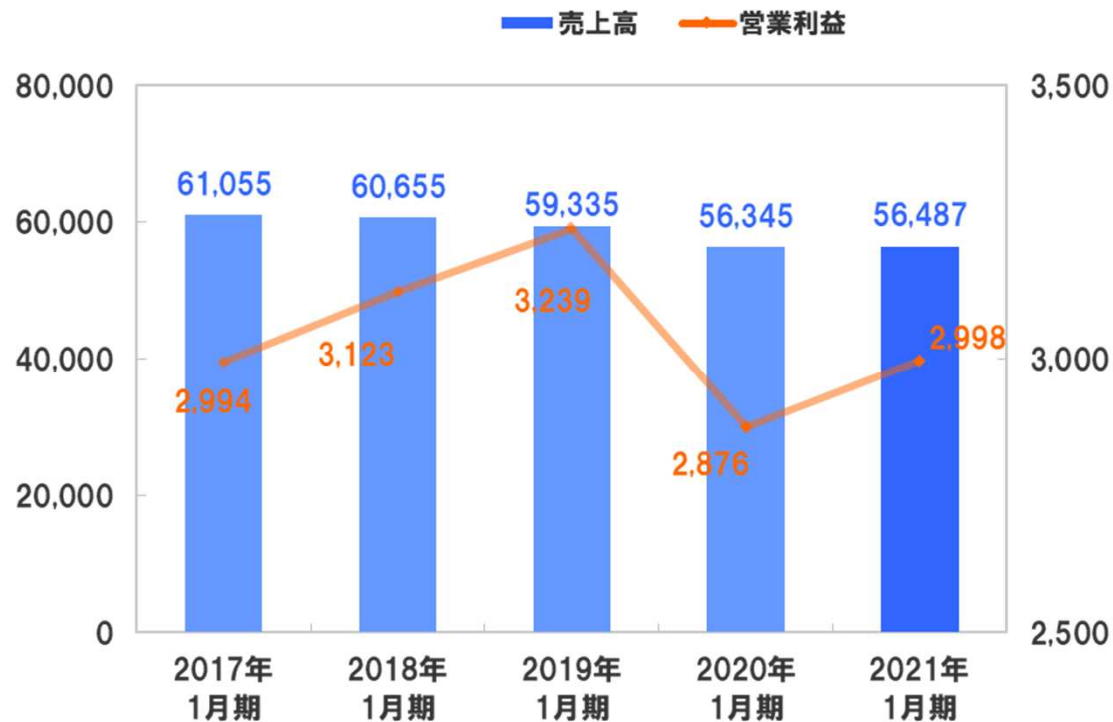
(単位：百万円)

連 結	売 上 高			営 業 利 益		
	当期	前期	対前比	当期	前期	対前比
文教市場販売事業	56,487	56,345	100.3%	2,998	2,876	104.2%
店舗・ネット販売事業	67,004	73,788	90.8%	121	238	51.1%
図書館サポート事業	30,375	27,865	109.0%	2,669	2,189	121.9%
出版事業	4,265	3,864	110.4%	285	18	1,528%
その他事業	13,487	14,393	93.7%	601	913	65.8%
消去又は全社	---	---	---	2,793	2,781	---
合 計	171,621	176,258	97.4%	3,882	3,454	112.4%

4. 主要事業 文教市場販売事業

(単位：百万円)

	売上高	営業利益
2021年 1月期	56,487	2,998
対前比	141 (100.3%)	121 (104.2%)



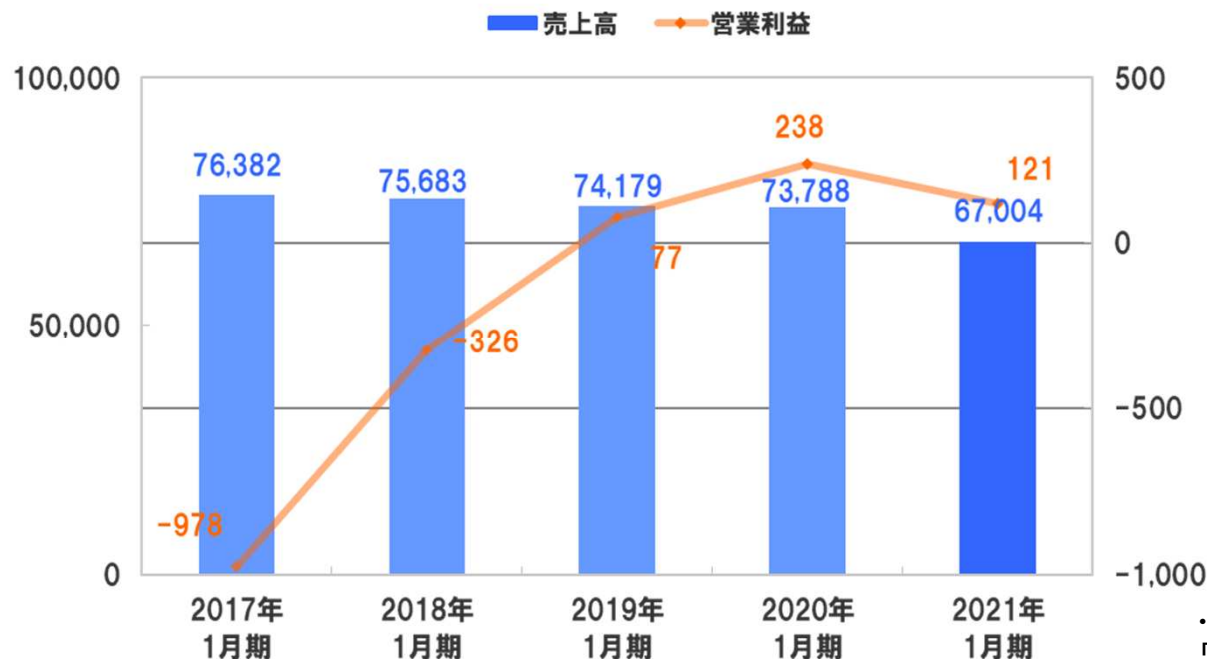
- 緊急事態宣言の発出により大学が休校になったことで、大学売店の休業や営業時間短縮、訪問営業の自粛等により、書籍販売や大学キャンパス内売店の売上が落ち込んだ。

- 一方、これまでシステム導入やコンテンツの拡充を進めてきた電子書籍・電子図書館関連や、電子教材、さらに図書館の衛生管理ツールとして販売してきた書籍除菌機が、コロナ禍において大幅に売上を伸ばし、増収増益を確保した。

4. 主要事業 店舗・ネット販売事業

(単位：百万円)

	売上高	営業利益
2021年 1月期	67,004	121
対前比	-6,783 (90.8%)	-116 (51.1%)



- 緊急事態宣言発出及び自治体からの要請で、4月～5月はほとんどの店舗で営業自粛や時間短縮を行い、約68億円の大減収となった。
- コロナ禍による臨時休業店舗の固定費等を特別損失に、受取補助金等は特別利益にそれぞれ振替えている。
- 都市部周辺の沿線駅や地方店舗が比較的好調だったことや、業務効率化や経費削減により営業黒字は確保したが、コロナ禍の影響は大きく、減収減益となった。

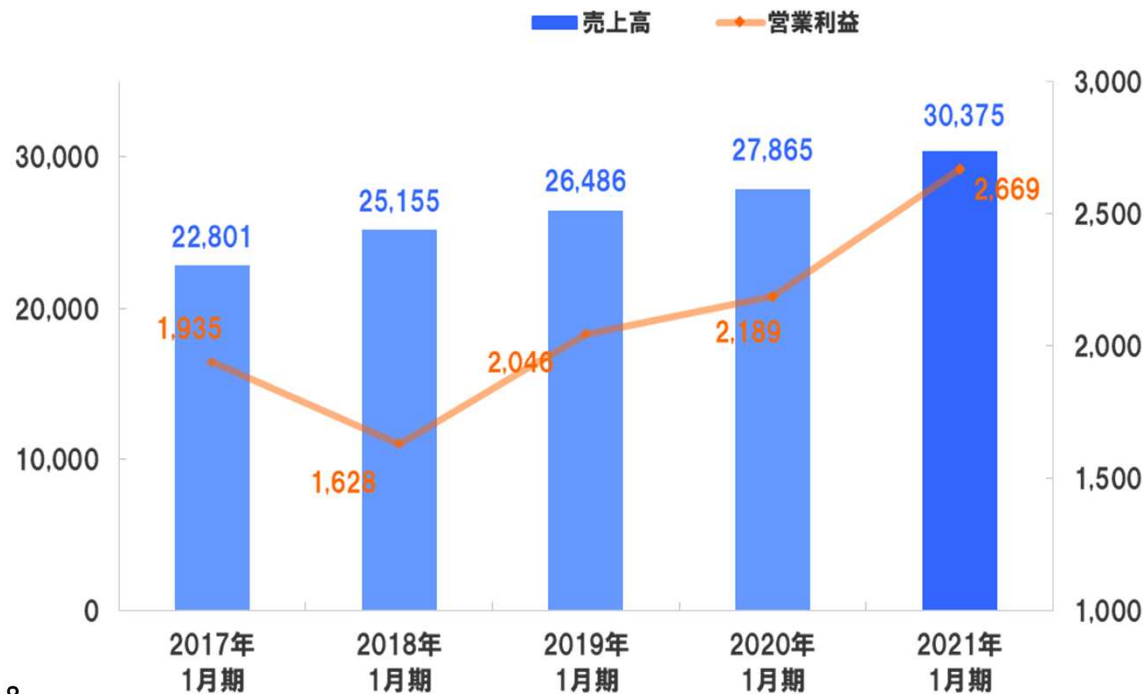
・2021年1月末時点における店舗数は「MARUZEN」
「ジュンク堂書店」ブランド以外の店舗名を含め、
101店舗となっている。

4. 主要事業 図書館サポート事業

(単位：百万円)

	売上高	営業利益
2021年 1月期	30,375	2,669
対前比	2,509 (109.0%)	479 (121.9%)

- 当事業は新型コロナウイルス感染症の拡大による影響は比較的少なく、当期末の図書館受託館数も学校図書館を中心に、期初から187館増加し、1,676館となったこと、また、これまで進めてきた業務効率化の効果もあり、増収増益となった。



4. 主要事業 出版事業

(単位:百万円)

	売上高	営業利益
2021年 1月期	4,265	285
対前比	401 (110.4%)	266 (1528.0%)



- 当期は児童書分野及び専門書分野をあわせて、246点を刊行した（前期285点）。
- 新型コロナウイルス感染症拡大下での巣籠り需要により、児童書売上が伸長。
- 大学のオンライン授業の影響で、教科書および関連参考図書へのニーズが高まり、専門書売上也堅調に推移。
- これらの増収要因により、コロナ禍で一部新刊の刊行遅延はあったものの、増収増益となった。

4. 主要事業 その他事業

(単位：百万円)

	売上高	営業利益
2021年 1月期	13,487	601
対前比	-906 (93.7%)	-312 (65.8%)

- 店舗内装業において新型コロナウイルス感染症拡大により主要顧客の投資意欲の低下や訪問営業を自粛したことで、大型の新店・リニューアル店案件が延期や中止となる等、大きな影響を受けたことで、減収減益となった。



5. 来期・2022年1月期(当社第12期)業績予想

- 文教市場販売事業では、これまで注力してきたデジタルコンテンツへの取り組みを更に強化し、電子図書館の導入拡大、地域の貴重資料のデジタル化の拡販などを進めるとともに、図書館向け検索発注システムや大学教科書のオンライン販売などの一層の促進により、変化する社会の行動様式にマッチした仕組みを提供することで、地域の活性化や、学術・教育分野での貢献をさらに高めます。
- 店舗・ネット販売事業では、生活者の購買行動の変化に合わせ出店立地を見直し、継続的にスクラップ&ビルドを進めます。また、客層や地域性に基づいた販促、店頭取り置きサービスの拡充、書籍コンテンツをベースにした講演会等のオンライン配信事業など、新しいニーズに対応した施策を推進します。
- 図書館サポート事業では、これまでの図書館システムの充実や専門性の向上に加え、安全安心な図書館業務運営にさらに注力し、非対面のセルフ型や非来館型の貸出/返却システムの提供などを進めます。
- これらの施策により、売上は店舗・ネット販売事業の回復から増収となるものの、新型コロナウイルス感染症拡大下における特殊要因として、前年に電子書籍、電子図書館、書籍除菌機等の大きな需要増があったことに加え、コロナ禍後の市場において、社会動向や消費者動向の変化による市場環境の予測には不透明感が残ることから、2022年1月期の業績予想は現時点で増収減益としております。

(単位：百万円)

【2022年1月期予想】	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益
通期業績予想	177,000	3,600	3,450	1,900
当期実績(通期)との比較	5,379	-282	-260	-191
【2021年1月期通期実績】	171,621	3,882	3,710	2,091

ご参考資料

当期のトピックス

- 2月 丸善ジュンク堂、全国の店舗で「楽天ポイントカード」導入
- 3月 丸善ジュンク堂、戸田書店の一部店舗（5店舗）の運営を開始。6月には3店舗追加。
- 4月 TRC、全国約30の公共図書館で無償プログラミング教室を2020年度より開始
- 4月 丸善雄松堂、貴重史資料のオンライン配信プラットフォーム「J-DAC」が文部科学省の「研究支援サービス・パートナーシップ」に認定
- 5月 TRC、電子図書館サービスの貸出実績が前年対比526%に大幅増加。3ヶ月連続の大幅増加。
- 6月 丸善雄松堂、「オンライン版虚子記念文学館所蔵 近代文学作家自筆資料集」の販売をJ-DACを通じて開始
- 7月 TRC-ADEAC（株）のデジタルアーカイブシステム「ADEAC（アデアック）」が2020デジタルアーカイブ産業賞「貢献賞」を受賞
- 9月 丸善雄松堂、羽田HICityに知とまなびのコミュニティラウンジ「Creadisce（クレアディスケ）」をオープン
- 10月 TRCとDNPが共同で未来の図書館「バーチャル図書館」の開発を開始
- 10月 TRC電子図書館サービスを導入する全国の自治体数が100を突破
- 10月 編集工学研究所、「科学道100冊」が2020年度グッドデザイン賞を受賞
- 12月 TRC書籍要約サービス「flier」の読み放題サービスを公共図書館へ初導入
- 1月 TRC書誌情報データベース「TRC MARC」累積作成件数400万件突破
- 1月 TRC指定管理館「こども本の森中之島」が2020年関西元気文化圏大賞受賞

丸善ジュンク堂書店店舗情報

新規出店・移転

3月	丸善日立店（茨城県、書籍・雑誌・コミック・文具、175坪）
5月	丸善アピタ知立店（愛知県、書籍・雑誌・コミック・文具、120坪）
6月	丸善ヒルズウォーク徳重店（愛知県、書籍・雑誌・コミック・文具、250坪）
6月	丸善イオンタウン千種店（愛知県、書籍・雑誌・コミック・文具、300坪）
6月	丸善有明ガーデン店（東京都、書籍・雑誌・コミック・文具、350坪）
7月	淳久堂書店光復南路店（台湾）が移転し、淳久堂書店明曜店としてオープン（台北市、書籍・雑誌・コミック・文具・雑貨、105坪）
8月 移転	ジュンク堂書店福岡店移転（福岡県、書籍・雑誌・コミック・洋書・文具、720坪）
8月	HAMARUラクシスフロント店（神奈川県、カフェ28席・書籍・文具・雑貨）
8月 移転	ジュンク堂書店高槻店移転（大阪府、書籍・雑誌・コミック・文具、400坪）
9月	丸善さんすて岡山店（岡山県、書籍・雑誌・コミック・文具、220坪）
12月	丸善アスナル金山店（愛知県、書籍・雑誌・コミック・文具・雑貨、210坪）

閉店

2月	ジュンク堂書店ロフト名古屋店閉店
2月	ジュンク堂書店京都店閉店
7月	丸善名古屋セントラルパーク店閉店



HAMARUラクシスフロント店



本資料には、当社および当社グループの将来についての計画や戦略、業績に関する予想および見通しの記述が含まれています。

これらの記述は、当社が現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断した予測であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため、様々な要因の変化により、実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があります。